



地方創生にかかわる中小企業の役割

地域の「資財」を活かした 新しい産業について考える 「選択と集中」

18



Human Delight株式会社 代表取締役社長

野田 万起子 のだまきこ

静岡県出身。東京国際大学経済学部国際学科卒業。米国オレゴン州TIUアメリカ校卒業。1993年株式会社ベンチャー・リンク入社。2010年同社取締役就任。11年同グループのMBOにより独立。インクグロー株式会社の代表取締役社長を務めたのち、15年より現職。地方自治体の地方創生プロモーションの支援に従事する一方、経済産業省「女性起業家等支援ネットワーク構築事業」の静岡県主宰としても活躍している。

した湾に着目しました。実は、1997年には、「湾を活かした観光振興と資源保護、そこに暮らす人々の生活様式や伝統の継承、および景観保全」を目的に、世界で最も美しい湾クラブがドイツのベルリンで設立され、現在はフランスのヴァンヌ市の本部にてユネスコの後援を受けています。その、「世界で最も美しい湾クラブ」に日本では5湾が加盟しており、これは世界遺産に並ぶ日本の資財だと感じています。

「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟している日本の5湾とは？」

- 日本には94の湾があります。改めて調べてみると以下の基準があります。
- 1・優れた自然の美しさがあること
 - 2・豊かな生態系があること
 - 3・経済的潜在力があること
 - 4・地域と国レベルでの法的保護体制が整っていること
 - 5・世界遺産の評価基準に準じていること
- 日本でこの基準をクリアして加盟している湾は
- ①松島湾（宮城県 松島町、東松島市、塩竈市）
 - ②富山湾（富山県 富山市、高岡市、氷見市、射水市、滑川市、魚津市、黒部市、入善町、朝日町）
 - ③駿河湾（静岡県 伊豆市、沼津市、富士市、静岡市、焼津市、牧之原市、御前崎市、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、吉田町）
 - ④宮津湾・伊根湾（京都府 宮津市、伊根町）
 - ⑤丸十九島（長崎県 佐世保市）
- 現在は、以上の5湾になります。

地方創生を考える時、地域の課題は何かを洗い出します。課題が無い地域はなく、むしろ課題が山積しているのが現在の地域の状況でしょう。しかしながら、全ての課題を一気に解決することは困難なことで、10年後、20年後に、このまちはどういう姿になっているのかの「あるべき姿の設計図」を描き、そこに向かうための優先順位付けが必要となります。設計図を作る際のポイントは、地域経済の発展と地域の新しい産業をどうやって作っていくのか、ということにあるように思います。

今一度見直したい「地域資財」。我が国、島国日本を代表する一つの資財には大変な魅力がある

世界的に認められる文化財、景観、自然として1972年のユネスコ総会で採択された「世界遺産」があります。現在、世界遺産に登録されている件数は1092件あり、日本は18件の文化遺産と4件の自然遺産が存在します。これは国の「財（たから）」となり、世界遺産に選ばれるとその地域が湧き観光客が沢山増えます。インバウンドで海外から来られる方も世界遺産を目的に行程を組まれます。

さて、2003年の世界首脳会議にて2012年までに国際的な海洋保護区のネットワーク構築が提唱され、2020年までに地球上全海洋面積の10%を海洋保護区にすることが合意されました。これを受け世界遺産の学術的評価を審査するユネスコが世界自然保護会議で海洋保護区について検討を開始、管理が難しい外洋ではなく、陸地に接

何故、地域資財に注目するのか。新しい産業を創る上で必要な要素をもとに地域の未来を考える

私は地方創生には新しい産業の創造が不可欠だと考えます。しかも、大きく時代が変化している中、過去に地域を発展させてきた産業を尊重しつつも、新しい産業を創る努力をしていかななくてはなりません。これからの世の中に、そして地域に何が必要なのか。それを考える上で、今一度、我が地域の財、産業を生み出す可能性のあるものは何かを選定することが大事だと思います。そして「選択と集中」を決断すること。

例えば、前述してきている「湾」を誇る地域では、その資財をもとに、観光業・観光業に付随するサービス業が考えられます。しかしながら、そこに携わる事業者が極めて少ないのが現状です。従って、雇用も生まれていません。

地域の資財に誇りを持ち、将来はそれに係わる仕事をしたいと思うような人材を育成していくことも必要です。義務教育を終えてからの学習は、更に専門課程の強化が見直されている中、地域において新しい産業を見据えた専門学校が出来るべきです。地域企業は専門知識をもった人材の雇用を求めます。地元では就職する会社がないと思っ